

警報機も遮断機もない北条鉄道の危険踏切の安全対策を



田井 真一 議員
(加西市民クラブ)



問 北条鉄道の踏切のうち、市内での設置数は。

答 警報機と遮断機が設置されている踏切（第1種踏切）は29カ所、警報機も遮断機も設置されていない踏切（第4種踏切）は6カ所です。

問 「加西市交通安全計画期間（令和3年度～7年度）」の5年間に発生した踏切での交通事故の件数は。

答 過去5年間の交通事故数は39件で、全て第1種踏切で発生しており、そのほとんどが自動車と遮断棒との接触事故で

す。

問 前期計画では、「遮断機のない踏切については、着実に遮断機の整備をする」と記されている。過去5年間で、第4種踏切6ヶ所のうち警報機・遮断機を設置したところはあるのか。

答 警報機・遮断機を設置したところはありません。

問 第4種踏切の交通安全対策については、今後どのように取り組むのか。多くの経費と時間を要すると思うが、警報機や遮断機を積極的に設置して住民の安全と安心を守る方針か。

答 踏切周辺における大規模開発がある場合は改修してきており、北条鉄道と連携して検討したいと考えています。

問 前期計画では、「踏切の統廃合を進める」と記されているが、地元住民の同意を得ることは極めて困難と考える。次期計画での統廃合についての考え方は。

答 踏切を統廃合することは難しいと考えています。

要望

他都市での出来事であるが、幼い子が警報機も遮断機もない踏切内に入り電車に跳ねられて亡くなったニュースに心を痛めたことがある。「人命尊重」の理念に立って、第4種踏切の交通安全対策を積極的に進めて欲しい。



網引町内の危険踏切



森元 清蔵 議員
(清流会・かさいを育む会)



自衛隊の市中パレードと平和行政推進について

問 5月30日の青野原駐屯地創設50周年記念の市中パレードの主催と目的は何か。

答 市中パレード実行委員会主催で、自衛隊と市民との相互理解を深めるとともに、地域の活性化ならびに防災、防衛意識の高揚に寄与することを目的として実施されました。

問 自衛隊に対していろいろな考え方があがるが、この平穏な中で、装備の示威行動に威圧感や不安を抱く市民もいる。市中パレードに対して、配慮が必要であったのではないかと。

答 防衛施設周辺整備事業の補助金で支えていただきました。今後も自衛隊との関係性を円滑に進めていくために、このパレードを全面的に支援していくべきと判断しました。

問 市からの補助金200万はどう使われたのか。

答 警備費に約140万円、会場音響設置費に約20万円、広報啓発やイベント保険等の運営費に40万円です。

問 市民の反応と市の評価は。

答 沿道には、2,000人を超える方々が訪れ、その後soraかさい周辺の装備品展示にも約1,000名が参加されて、多くの賞賛の声をいただきました。一方、市外の一部の団体や個人の方からは、憲法9条との関係や現在の緊

迫する世界情勢を鑑み、パレードの実施に懸念を示される声もありましたが、自衛隊と市民との相互理解及び地域活性化という概ねの開催目的は達成できました。

問 これからの平和行政の推進として、soraかさいにおける平和教育は。

答 修学旅行や郊外学習で、7年度は68校が訪れており、今後も修学旅行、平和学習並びに観光誘致を進めていきます。

問 防衛費の増大の動きに対し、青野原ホークミサイル基地を抱えている地元として、戦争に向かわないように努力をすることが必要ではないか。

答 （市長）憲法遵守して、市民の安全安心を守るための協力体制をしっかりと維持していかなければならないと考えています。